

特集

授業設計再入門

日々振り返るべき授業設計の原点 佐藤みつ子

インストラクショナルデザインとしての授業設計 鈴木克明

「教員」が学んできた授業設計, 「看護教員」が学んできた授業設計 新保幸洋

今, 教員養成講習会で教えられている授業設計 酒井恵子ほか

「授業設計」を意識した授業はどう作られるのか 塚本都子

【座談会】学びからの時間経過によって変わる? ——授業設計の活かし方

藤本奈緒子/井上奈央/和氣美央

【焦点】

看護学教育における FD マザーマップの開発(2) 遠藤和子ほか

【新連載】

看護教育に協同学習法を取り入れる・1 緒方巧

看護学校運営 12 のポイント・1 江川万千代

ひろがる災害医療と看護 身につけるべき知識とスキル・1 小井土雄一

国際学会への道・1 土師しのぶほか

【連載】

我らカルガモ! 育児学生日記・4 須崎美穂

看護はやっぱり面白い!? アラフォー女子大生の「看護」探求の日々・4 片山紀子

実習の経験知 育ちの支援で師は育つ・20 新納美美

Mail From USA ——『JNE』を読み, 世界の看護教育の流れを知る・48 喜吉紘子

編集後記

◎編集室ツイッター <http://twitter.com/KANGOKYOIKU>

●「看護師を養成している」教育機関において, 学生の国家試験合格が大きな命題であるのは当然です。「いや養成しているのではなく, 看護学を学んでもらっているのだ」というところもあるかもしれませんが, だからといって国試を意識していないわけではないでしょう。●入学試験と違い, 合格さえすれば勉強したことを忘れてもかまわない(本来入試もそうではないはずですが……)というのではなく, 資格を得て働くに十分な実力をつけることが第一義であるのは, 言うまでもありません。けれども, 「試験に合格する」ためには, それなりに特化した対策があるものです。●今回特集に登場していただいた学校が合格率 100% を維持しているそのわけを, お原稿から読みただけうえで, 使えるものは使うという姿勢で取り組んでいただければと願っています。……大野

●ジムに通い始めました。鉄棒, 登り綱, 吊り輪など, 行う種目も風変わりですが, 私が思う最大の特徴は, 参加者全員が同時に同じメニューに挑むことです。すぐ隣に喰いながら苦闘を続ける人がいればサボるわけにはいかず, また, 自分の姿が同様に周りを刺激する。記録を競うライバルであり, 励まし合う仲間でもある彼らの存在は, 心が弱く妥協しがちな私には大変貴重です。「重要なのはコミュニティ」というジム Web ページの謳い文句も頷けます。●勉強もトレーニングと同じで結局のところ個人戦, 本人がやり続けるしかありません。地道な努力の積み重ねが必要で, どんなに意志の強い人でも「しんどい」「やめたい」と思うことがあるはず。そんな瞬間に「やめさせない」環境を整備している。本特集にご登場いただいた学校と CrossFit ジム (BOX) に共通する特色だと思います。……加藤

看護教育 第 54 巻 第 3 号 2013 年 3 月 25 日発行(毎月 1 回 25 日発行)

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2013, Printed in Japan

1 部定価 1,470 円(本体 1,400 円+税 5%) 2013 年・年間購読料(増大号を含む 12 冊)

冊子のみ 16,250 円, 冊子+電子版(個人)19,250 円, 冊子+電子版(共有)21,700 円, 電子版/個人 16,250 円,

電子版/共有 18,800 円(いずれも税込, 送料弊社負担)

発行: 株式会社医学書院 代表者: 金原 優 〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 販売部 TEL: 03-3817-5659

『看護教育』編集室 TEL: 03-3817-5776 メールアドレス: kankyou@igaku-shoin.co.jp 担当: 加藤・大野・早田

本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)医学書院が保有します。

本誌を無断で複製する行為(複写, スキャン, デジタルデータ化など)は, 「私的使用のための複製」など著作権法上の限られた例外を除き禁じられています。大学, 病院, 診療所, 企業などにおいて, 業務上使用する目的(診療, 研究活動を含む)で上記の行為を行うことは, その使用範囲が内部的であっても, 私的使用には該当せず, 違法です。また私的使用に該当する場合であっても, 代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

JCOPY (社)出版者著作権管理機構委託出版物

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は, そのつと事前に, (社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。0047-1895/13/¥250/論文/JCOPY が本誌の頁表記に並んで記されているのは, 1 論文 1 回複写につき 250 円を要することを明示したものです。表示のない論文などにも適用されます。JCOPY 宛にご連絡いただく際には, 筆頭著者名・論文名と併せて本表示をご提示くださるようお願いいたします。

本誌「看護教育」では、みなさまの誌面へのご参加をお待ちしています。

(2011年3月1日改訂)

掲載欄

●**看護教育研究**：看護学教育についての研究で、独自の知見が認められる論文／●**実践報告**：看護学教育の実践に関する内容で、発表の意義が認められる論文／●**調査報告**：看護学教育についての調査で、発表の意義が認められる論文／●**短報**：報告に準じ、発表の意義が認められる論文(「目的」「方法」「結果」に構成を絞ることを原則とする)／●**スクランブルゾーン**：看護教育に関するご意見や情報交換の欄。上記4区分に該当しない、本誌内容へのご感想やエッセイです(本欄のみ研究論文としての形式は不要)。

ご投稿の前に

●未発表のものに限ります

国内・国外を問わず、他誌に掲載されたもの、掲載予定のもの、自らあるいは第三者のホームページに収載または収載予定のものはご遠慮ください。

●倫理的配慮について

十分な手続きと、必要な場合は対象者の同意を得て執筆・投稿をお願いします。

●他論文からの引用・転載は必要最小限に

無断転載は固くお断り致します。必ず原著者の許諾を得てください。

●原則として返却しません

投稿原稿は、採否にかかわらず返却いたしません。

●掲載には査読審査(3か月程度目安)を要します

投稿原稿に対しては、採否にかかわらず原稿受領のご連絡を致します。お問い合わせの際は、受領連絡に記された受付番号をお申し出ください。

●論文の採否について

論文の採否は論文審査委員の査読を経て決定致します。審査の結果、原稿への加筆、修正をお願いすることがありますので、予めご了承ください。

●著作物について

本誌に掲載する著作物の複製権、上映権、公衆送信権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、譲渡権等は医学書院に譲渡されたものとします。著作者ご自身のこれらの権利を拘束するものではありませんが、再利用される場合には事前に弊社あてにご一報ください。

●掲載の場合には

掲載誌と規定の原稿料をお送りいたします。

執筆規定

●原稿表紙

希望する掲載欄を明記した上で、次の項目を漏れなく記載する。論文名、執筆者名(ふりがな)、所属機関、連絡先(複数で執筆した場合は代表者)の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ、Eメールアドレス(推奨)。

●原稿分量

「看護教育研究」は8000字、「実践報告」「調査報告」「スクランブルゾーン」は6000字、「短報」は2400字を上限とする。図表等はこれに含む。※図表は、大小にかかわらず1枚400字相当として換算(引用文献も字数に含む)。

●本文

B5判あるいはA4判に横書きとする。

●図表・写真

図表・写真は本文には挿入・貼付せず、別紙(別ファイル)とする。引用・転載の場合は出典を明記する。挿入箇所は本文に明記する。

●引用・参考文献

本文中の該当箇所の右上に番号を付した上で、本文末尾にまとめて表記する。原則は下記の通り。

・書籍の場合

番号) 著者名：書名、発行所、開始ページ—終了ページ、発行年。

番号) 著者名(翻訳者名)：論文名、編者名：書名、発行所、開始ページ—終了ページ、発行年。

・雑誌の場合

番号) 著者名：論文名、雑誌名、巻(号)、開始ページ—終了ページ、発行年。

原稿送付先

●Eメールの場合(推奨)

メールのタイトルを「投稿論文」とし、原稿は添付ファイルとする(5MB以下)。メールの本文に連絡先を明記して、下記までご送信ください。

kankyou@igaku-shoin.co.jp

●郵送の場合

原稿プリントアウトにデータを保存したメディアを添付し、下記までご送付ください。

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23

(株)医学書院看護出版部「看護教育」編集室

Vol.54 No.2

2013年2月
特集

基礎看護学を再構成する・2

看護の「基礎」を教えるとは？

看護を学ぶ者が最初に習うのが基礎看護学です。そこでは、「看護とは何か、看護師とはどのような職業か」を学ぶことになっています。多くの学生は、ここで初めて「看護」にふれることとなります。

今回の連続特集は、看護学生が最初に学ばなければならない「基礎」とは何かについて考え、それをふまえたうえで、実際に現場でどのように教えていけばいいのかを検討することにより、「基礎看護学」を充実させるきっかけとしていただくことを目的に組まれたものです。

前号では、看護の「基礎」とは何かを再検討しました。しかし実際の教育現場では、「基礎」の再考も大事とはいえ、科目としての基礎看護学がある以上、それをどのように教えるかが、重要となります。そこで今回は、実際に何を重視して教えていけばいいのか、どう教えているのかについて、現場からの声を集めました。また、臨床現場から基礎看護学を振り返っていただきました。学問としての追求だけでなく、日々教育実践している立場からの「基礎看護学」の再考により、今後の取り組みの充実につながれば幸いです。

■「基礎看護学」において初めて看護に接する学生に伝えることは？——看護学原論の取り組み……水戸優子・加納佳代子

■【座談会】領域別看護を経験したうえで、「基礎」看護教育を考える……水戸優子・大石朋子・鹿倉みさ子・伊藤茂理・土澤るり

■基礎看護学担当教員が「本当」にやらなければならないこと——看護技術教育の重視を！……水澤晴代

■進学コースにおける「基礎看護」のとらえ方……藤田京子

■初年時教育と基礎看護学『看護学入門』を通して考える……上原佳子

■臨床現場から振り返る「基礎看護学」コミュニケーション技術と環境調整に対する思いの変遷……市川陽子
経験を積むに連れ立ち戻ることの増えた基本……土谷由美



Vol.54 No.1

2013年1月
特集

基礎看護学を再構成する・1

看護の「基礎」とは何か？

看護を学ぶ者が最初に接する専門科目が基礎看護学です。そこでは、「看護とは何か、看護師とはどのような職業か」を学ぶことになっています。多くの学生は、ここで初めて「看護」にふれることとなります。何事もそうですが、「基礎」ができていなければ、いくら積み重ねても不十分なため、教育においては最も重要といっても過言ではありません。今回の連続特集は、看護学生が最初に学ばなければならない「基礎」とは何かについて考え、それをふまえたうえで、実際に現場でどのように教えていけばいいのかを検討することにより、「基礎看護学」を充実させるきっかけとしていただくことを目的に組まれたものです。

今号では、そもそも看護の「基礎」とはいったい何なのかを改めて考えることによって、基礎看護学の再構成のきっかけとしたいと思います。基礎看護「学」とは何かについても、改めて考える機会になれば幸いです。

■看護の「基礎」って何だろう？——ゆるがない「基礎」をつくるために……川島みどり

■基礎看護学は誰が何を教授するのか？……川口孝泰

■基礎看護技術以外の「基礎看護」とは？……佐居由美

■「基礎看護学」という学問は成立するのか？……櫻井利江

■在宅看護は基礎？ それとも統合？……本田彰子



【2012年12月号 (Vol.53 No.12)】

**“特定能力”をもつ看護師の
新たな役割とその人材育成**

【2012年9月号 (Vol.53 No.9)】

**学問としての
在宅看護論の確立へ**

【2012年11月号 (Vol.53 No.11)】

**「複数受け持ち」実習を
より効果的に**

【2012年8月号 (Vol.53 No.8)】

**教務主任養成講習会での
学びを活かす**

【2012年10月号 (Vol.53 No.10)】

**コミュニケーション力を育む
実習前に教員としてできること**

【2012年7月号 (Vol.53 No.7)】

**学校をアピールする！
学生確保のためにできること**

バックナンバーのご注文・在庫照会について

- 2011年1月号(Vol. 52, No.1)以前の号は、東亜ブック(TEL.03-3985-4701, FAX 03-3985-4703, <http://www.toabook.com/>)
- 2011年2月号(Vol. 52, No.2)以降の号は、医学書院販売部(TEL.03-3817-5659)をお願いします。